

# 第41回大阪府学校教育審議会

日 時 令和3年11月5日（金）10：00～

会 場 ホテルプリムローズ大阪 羽衣

## 次 第

1 開 会

2 審 議

- ・ 中学校等へのヒアリング結果 ほか

3 閉 会

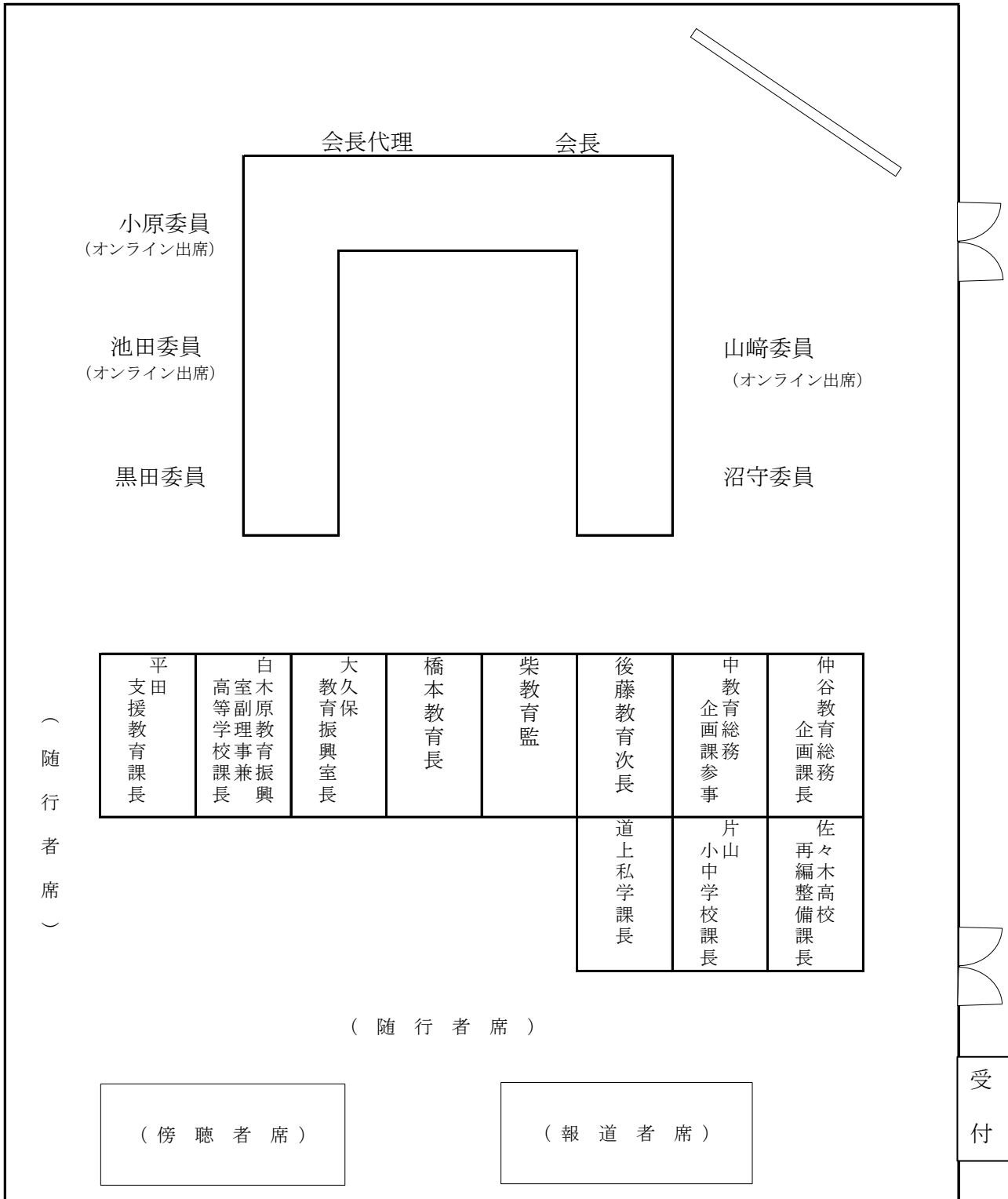
## 配付資料

- ・ 次第
- ・ 大阪府学校教育審議会委員名簿兼出席者名簿
- ・ 配席図
- ・ 第41回大阪府学校教育審議会 資料

大阪府学校教育審議会委員名簿兼出席者名簿

氏名	職名	分野	第41回会議
浅野 良一	兵庫教育大学大学院 教授	教育学	出席
小田 浩伸	大阪大谷大学 教育学部長	教育学	出席
田村 知子	大阪教育大学 教授	教育学	欠席
池田 佳子	関西大学 教授	日本語教育 国際教育	出席(オンライン)
金澤 ますみ	桃山学院大学 准教授	学校ソーシャルワーク	欠席
沼守 誠也	大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学 総務本部長	教育行政	出席
小酒井 正和	玉川大学 教授	ICT	欠席
黒田 隆之	桃山学院大学 准教授	社会福祉	出席
小原 美紀	大阪大学大学院 教授	労働経済学	出席(オンライン)
山崎 智恵子	株式会社パソナ 関西マイコーチ統括部 マイコーチ第2チーム チーム長	企業関係者	出席(オンライン)

# 配席図



## 第41回大阪府学校教育審議会 資料

---

1. 志願倍率や各指標について
2. 高校進学に関わる方々からの主なご意見

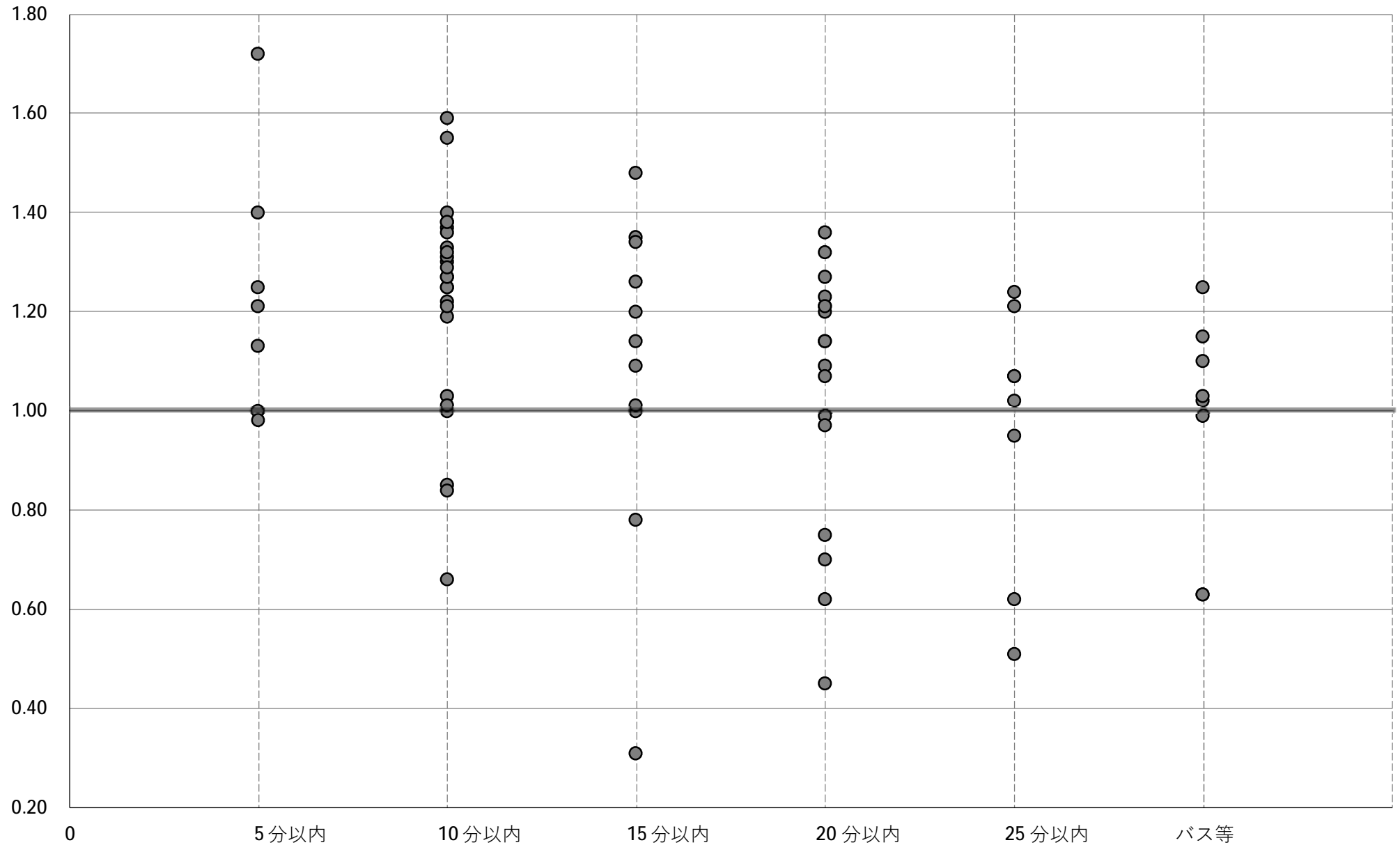
# 志願倍率や各指標について

---



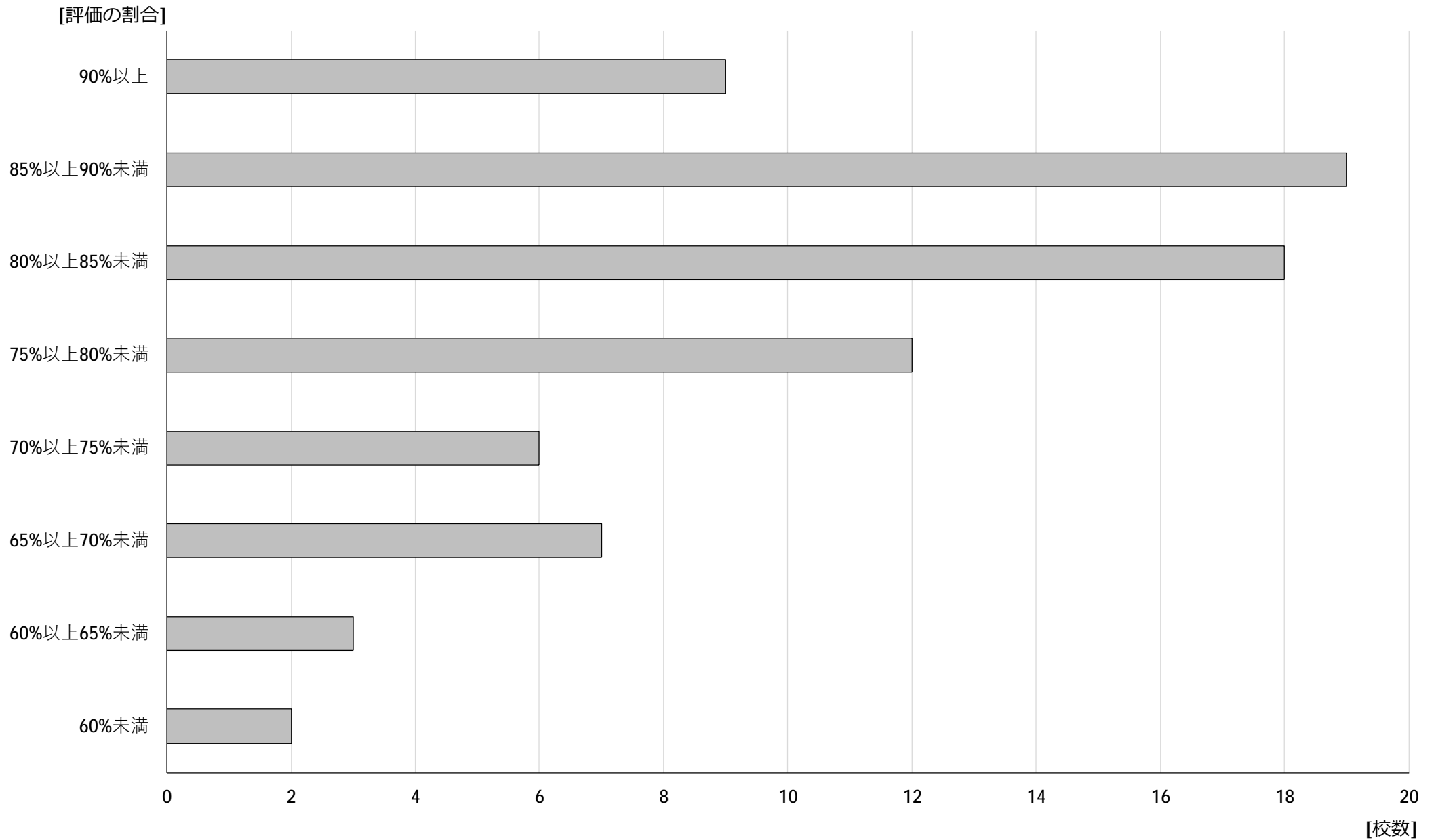
## 2. 志願倍率と最寄駅からの通学時間

[R3年度志願倍率]



[通学時間]

### 3. 学校生活に係る肯定的評価(生徒)の割合と校数





# 高校進学に関わる方々からの主なご意見

---

# 1. 中学校の進路指導担当からの主なご意見

分類	主な意見
府立高校の卓越性等	<ul style="list-style-type: none"><li>「社会で生き抜く力」が身につくよう、リベラルアーツをはじめ人格形成に関わる様々な学びや気づきの場を提供してほしい。</li><li>中堅校については、専門性の追求をはじめ生徒の興味・関心を高める取組みにより、志願者数が増えるのではないか。</li></ul>
情報発信・広報	<ul style="list-style-type: none"><li>保護者も中3の進路指導・担任団も、高校での取組みへの理解が薄く、卒業生の中学校訪問や高校見学ツアーなど様々な形で情報発信が必要。中1や中2の時点で情報発信があれば、なお良い。</li><li>様々な機会を捉えて（あるいは自ら設けて）、顔が見える関係を築いている高校には、志望校として勧めやすい。</li></ul>
志望校選択	<ul style="list-style-type: none"><li>「普通科高校に進学」という生徒が増加。</li><li>指定校推薦＞AO入試＞センター利用＞一般入試、の順で大学進学を希望する生徒が多く、指定校推薦の有無が志望校選択に与える影響は大きい。</li><li>全学区制のもとでは、旧来の学区を超えて受験することも多く、人気校には追い風の状況が、不人気校には逆風の状況が続いてしまう。</li><li>志望校選択に関して、相対評価時は校内で蓄積したデータを活用して、積極的に選択を勧めることができたが、絶対評価の導入や学区の撤廃により、その活用が難しくなっている。</li></ul>
中高連携	<ul style="list-style-type: none"><li>学習・部活動・進路指導等に関して、中学校と高校の教員同士が日常的に連携できる仕組みを設けるべき。</li></ul>

## 2. 中学生の保護者からの主なご意見①

分類	主な意見
府立高校の卓越性等	<ul style="list-style-type: none"><li>Ⅰ 高校卒業までに、社会人として必要最低限の素養・能力を身につけてほしいと考えており、生活指導や進路指導に際しては「社会人としての入口に立てる教育」としてのものであってほしい。</li><li>Ⅰ キャリア教育の内容や成果を明確に示してくれている高校を選択したい。また、デジタルリテラシーの有無で就職できる職種の範囲や賃金が変わることから、高校卒業までに、全ての生徒がPCでワープロ・表計算・SNS等が使いこなせるようなキャリア教育をお願いしたい。</li><li>Ⅰ 高校の強みとして、「地域に根付いていること」「他の高校や大阪府庁のリソースが活用できること」が考えられる。市町村や地域の企業・大学との連携、高校間の連携、府庁の各部局との連携等により、様々な取組みを行うことで、各学校に特色が生まれるのではないかと。</li><li>Ⅰ 進学・就職に際して、ボランティアやアルバイトの経験を問われることが多く、上記の連携を基に、地域に密着したボランティア等を紹介するなどの取組みができるのではないかと。</li><li>Ⅰ 高校のスケールメリットを活かし、ある高校の興味深い授業を他校でもオンラインで受講できる仕組みを作れないか。また、複数の学校で商品の企画・開発（収穫）・販売・収益管理等を行うことで、「働くイメージの構築」「コミュニケーション力の向上」を図ることができるのではないかと。</li></ul>
情報発信・広報	<ul style="list-style-type: none"><li>Ⅰ 中学校の成績と高校の入試がどのように結び付いていくのか、簡単にわかるような情報発信をしてほしい。</li><li>Ⅰ 中学校入学時に、子どもたちや保護者に、上記の情報や高校の情報を配布（発信）してほしい。3年後の入試がイメージできることで、子どもたちが中学校で学ぶモチベーションが上がるのではないかと。少なくとも、保護者としては高校をリサーチしてみようという気になる。</li><li>Ⅰ 公共交通機関を中心に学校周辺の企業とタイアップし、沿線の高校を特集してもらった広報誌のようなものが作成・配布できないか。高校とその高校出身の著名人を取り上げることで、広範に高校の魅力を伝えることができるのではないかと。</li></ul>

### 3. 中学生の保護者からの主なご意見②

分類	主な意見
志望校選択	<ul style="list-style-type: none"><li data-bbox="416 284 2159 427">I 志望校選択の際に、前年度志願倍率が及ぼす影響は大きく、前年度倍率が低い高校を選ぶ傾向にある。また、中学校や塾からの指導・助言に加え、近所・知人・卒業生等の口コミの影響もかなり大きい。<b>SNS</b>をはじめ<b>Web</b>上の評価は、玉石混交であることを踏まえ、参考程度としている。</li><li data-bbox="416 443 2159 531">I 電車だと1時間程度まで、自転車だと30分程度までが、志望校選択の目安となる。また、定期代や駐輪場代を考えると、高校の特色に違いがなければ、自宅から近い高校を望むのではないか。</li><li data-bbox="416 547 2159 635">I 地域出身の保護者には、9学区制時の各校のイメージが色濃く残っており、志望校選択の際には、それらのイメージに加えて、口コミ等の評価を加味して、選択していくことが多い。</li><li data-bbox="416 651 2159 738">I 子どもたちは、偏差値をもとに入りやすい高校を選択しがちだが、マスコミで取り上げられるような、元気（なイメージ）のある高校を選択する傾向も一定ある。</li></ul>
中高連携	<ul style="list-style-type: none"><li data-bbox="416 770 2159 810">I 学習・部活動・進路指導等に関して、中学校と高校における教員間の交流を一層深めるべき。</li></ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li data-bbox="416 834 2159 922">I 不登校・中途退学となった生徒を、引き続き、他の高校で柔軟に受け入れる体制づくりをお願いしたい。</li><li data-bbox="416 938 2159 978">I 通学に係る補助があれば、志望校選択の幅が広がるのではないか。</li></ul>

## 4. 学習塾からの主なご意見①

分類	主な意見
府立高校の卓越性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>Ⅰ 内申点の関与度合いを変更するなど様々な入試改革に取り組んできた府立高校だからこそ、大胆な個性化、卓越化を図ることが可能ではないか。（抽象的になるが、モデル校を設定のうえ、先鋭的・先駆的な取り組みができるのではないか。）</li> <li>Ⅰ 1人1台の端末整備等ICT化が進んでいる一方で、ベテラン教員が大量に退職する時期を迎えることを踏まえると、今後、スタディログを活用し、AIによる進路指導や学習支援をシステムとして進めるべきではないか。</li> <li>Ⅰ キャリア教育について、起業をはじめ1から事業を始めて様々な仕事について学ぶことや、SNS等でのフェイクニュースを見分けるような情報リテラシーの習得が必要になるのではないか。</li> </ul>
情報発信・広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>Ⅰ 入試情報は膨大・複雑であるが、発信される情報に粗密・濃淡があり、生徒・保護者だけでなく、中学校の進路指導の先生にも分かりづらいのではないか。情報発信に際しては、ターゲットを絞るとともに、ターゲットが望む情報を、早期に分かりやすく提供したほうが良いのではないか。</li> <li>Ⅰ 情報発信・広報は、色々な媒体・ツールを活用をして、効果測定を行いながら何度も繰り返さないと効果が薄い。</li> <li>Ⅰ 高校が、地域の塾や中学校を対象に情報や意見を交換する場を設けることについて検討しても良いのではないか。</li> </ul>
志望校選択	<ul style="list-style-type: none"> <li>Ⅰ 他府県のように、第二志望の高校までを事前に確認し、入学できる仕組みの導入について検討してもよいのではないか。</li> <li>Ⅰ 府主催による府内共通の実力テストを中3時に何度か実施し、そのデータを活用できるようにすることで、志望校選択にも変化を促すことができるのではないか。</li> <li>Ⅰ 部活動をはじめその高校での学校生活への憧れも、志望校選択のモチベーションとなる。</li> </ul>

## 5. 学習塾からの主なご意見②

分類	主な意見
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>Ⅰ 学塾連携については、営利ベースとなるか、個別勧誘が行われなかなどの課題がある。大学と連携を深め、教員志望学生の実習先として単位認定するなどの方策を用いるほうが良いのではないかと。</li><li>Ⅰ 教員の業務軽減に向けて、テスト・文例・実践例等ストックのWeb上での共有・活用や、コンテストによる好事例の表彰・横展開などの取組みが考えられる。</li><li>Ⅰ 口コミサイトと現場が持つ情報の間には、乖離がある場合が多い。</li><li>Ⅰ 学習塾と高校・教育庁を結び、学習塾と高校が相談できるよう、窓口となる担当部署があれば。</li></ul>